



京都:Re-Search 2018

京都府内では交流人口の拡大、地域の活性化へ繋げるさまざまな取組を行っています。その一つとして、アーティストが一定期間滞在し、地域で制作を行うアーティスト・イン・レジデンス事業「京都:Re-Search」を実施し、地域が本来持ち得ているポテンシャルやその魅力をアートの視点から引き出すことを試んでいます。



京都:Re-Search 2018 in 京丹後

平成30年度は、京丹後市において、短期アーティスト・イン・レジデンス事業「京都:Re-Search 2018 in 京丹後」を実施します。8月20日から9月2日の14日間にわたり、京都府内のみならず、ほかの地域で活動する若手アーティストや工芸家、デザイナー、建築家など、クリエイティブな分野で活動している人が京丹後市に滞在しながら、各自が設定したテーマに沿って、京丹後の風土や歴史等の調査を行います。京丹後での発見を活かしたアートプロジェクトや作品プランの構想を立て、次年度の実現を目指します。またそれらを記録しデータ化していき、発信すると共にアートの視点による地域の新たなドキュメントを作っていきます。講師には、国際的に活躍しているアーティストやキュレーターたちを迎え、リサーチの手法を学ぶワークショップやフィールドワーク、参加者のリサーチへのアドバイスを予定しています。



申込みについて

平成30年6月8日（金）～7月13日（金）17時まで

参加申込書ダウンロード先

www.pref.kyoto.jp/bungei/artist-in-residence.html

参加申込書送付先

bungei@pref.kyoto.lg.jp

応募方法

参加申込書をダウンロードし必要事項を記載の上、メールにて提出して下さい。
※申込の際、メールの件名に京丹後参加希望と記載し送付下さい。

問合せ先

京都:Re-Search実行委員会事務局
〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町
京都府文化スポーツ部文化芸術課内
TEL：075-414-4279／e-MAIL：bungei@pref.kyoto.lg.jp

2018
募集要項

締切：7/13（金）
17時まで

京都
Re:Search

2018 in 京丹後



京都府アーティスト・イン・レジデンス事業
<http://kyoto-research.com/>

写真：丹後松島

事業概要

若手のアーティストや工芸家、デザイナー、建築家など、クリエイティブな分野で活動している人が京丹後市に滞在しながら、各自が設定したテーマに沿って、京丹後の風土や歴史等の調査を行います。京丹後での発見を活かしたアートプロジェクトや作品プランの構想を立て、次年度の実現を目指します。またそれらを記録し、データ化して発信すると共に、アートの視点による地域の新たなドキュメントを作っていきます。

0 1 実施期間	平成 30 年 8 月 20 日（月）～ 9 月 2 日（日）
0 2 講師	・SIDE CORE（アーティスト） ・黒瀬 陽平（美術家、美術批評家） ・島袋 道浩（美術家）
0 3 滞在（宿泊）場所	京都府京丹後市峰山町 「OGINO 邸」（ただし、個室なし、男女別の共同部屋となります。）
0 4 募集人数	7 名程度
0 5 応募資格	・本プログラム開始日に 20 歳以上 40 歳以下の方 ・期間中のすべてのプログラムに参加できる方
0 6 事業中の助成内容	・調査経費及びアーカイヴ作成費として 1 名当たり 5 万円を助成 ・居住地から京丹後市内までの交通費として 1 名あたり上限 3 万円を助成 ・滞在施設の提供（8 月 20 日～9 月 2 日、そのほか滞在に関わる費用は自己負担）
0 7 募集期間	平成 3 0 年 6 月 8 日（金）～ 7 月 1 3 日（金）17 時まで
0 8 選考等のスケジュール	提出いただいた書類を元に選考を行います。 （1）選考ポイント ・本人の意欲 ・独創的なリサーチ計画 （2）結果通知 平成 3 0 年 7 月 2 7 日（金） 応募者全員に選考結果をメールで通知いたします。
0 9 事業主体	京都 :Re-Search 実行委員会（構成：京都府、京丹後市ほか） 助成：損保ジャパン日本興亜「SOMPO アート・ファンド」（企業メセナ協議会 2021 Arts Fund） 

講師プロフィール



SIDE CORE - rode work - (Reborn Art Festival 2017)



EVERYDAY HOLIDAY SQUAD - RODE WORK -



Takahiro Morita - Line Wave -



BIEN - untitled -

SIDE CORE アーティスト

2012 年から高須咲恵と松下徹により活動を開始。美術史や日本の歴史を背景にストリートアートを読み解く展覧会『SIDE CORE - 日本美術と「ストリートの感性」-』を発表。その後、問題意識は歴史から現在の身体や都市に移行し、『SIDE CORE - 身体／媒体／グラフィティ -』(2013 年)、『SIDE CORE - 公共圏の表現 -』(2014 年) を発表。さらに 2015 年の『TOKYO WALK MAN』からは表現の場を、室内から実際のストリートへと広げる。ゲリラ的な作品を街に点在させ、建築や壁画、グラフィティを巡る『MIDNIGHT WALK tour』は、現在まで不定期に開催している。2017 年より、西広太志がメンバーとなり、公共空間にある見えない制度に、遊びを交えた視覚化をするアプローチの手法が確立されていく。また、数々の展覧会に参加する一方、2016 年からは東京の湾岸地域のスタジオ『BUCKLE KOBO』の運営に関わるなど、都市での表現のあり方を拡張し続けるアーティストたちが、流動的に参加できる場として、展覧会に留まらない活動を展開している。



黒瀬陽平(KUROSE Yohei)
美術家、美術批評家

1983 年生まれ。ゲンロン カオス*ラウンジ新芸術校主任講師。東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。博士（美術）。2010 年から梅沢和木、藤城睦らとともにアーティストグループ「カオス*ラウンジ」を結成し、展覧会やイベントなどをキュレーションしている。主なキュレーション作品に『破滅*ラウンジ』（2010 年）、『カオス*イグザイル』（F/T11 主催作品、2011 年）、『キャラクラッシュ!』（2014 年）、『カオス*ラウンジ新芸術祭 2017「市街劇 百五〇年の孤独」』（2017 年）など。著書に『情報社会の情念』（NHK 出版、2013 年）。



島袋 道浩(SHIMABUKU)
美術家

1969 年神戸市生まれ。那覇市在住。1990 年代初頭より国内外の多くの場所を旅し、そこに生きる人々や動物、風習や環境に関係したインスタレーションやパフォーマンス、ビデオ作品を制作している。パリのボンビドー・センターやロンドンのヘイワード・ギャラリーなどでのグループ展やヴェネチア・ビエンナーレ (2003/2017)、サンパウロ・ビエンナーレ (2006) などの国際展に多数参加。2004 年から 2016 年まではドイツ、ベルリンを拠点にし、ドイツ、ブラウンシュウィグ芸術大学やスイス、チューリッヒ芸術大学などで客員教授を務める。著書に [扉を開ける] (リトルモア)、絵本 [キュウリの旅] (小学館) などがある。

ワークショップスケジュール

※実施期間中、下記プログラム以外は、各自の計画により京丹後市内を調査し、アートプロジェクトや作品プランの構想を策定
※スケジュールは予定であり、実施にあたっては変更する場合があります。

8/20（月）	ガイダンス及びゲストアーティストとの交流会 時間 15:30～ 会場 京丹後市内 講師 SIDE CORE
8/21（火）	フィールドワーク、 その後参加者からのプレゼンテーションとゲストアーティストによるアドバイス 講師 SIDE CORE アートプロジェクトや作品プランを組み立てて行くためのヒントとなる、京丹後市内の場所（現地）をゲストアーティストと実際に調査しながら巡ります。 フィールドワーク終了後には参加者からのプレゼン、それに対するゲストアーティストからの様々な意見やアドバイスをいただきます。
8/22（水）	
8/23（木）	各自リサーチ
8/24（金）	期間 計4日間
8/25（土）	
8/26（日）	ワークショップ 1 「地域とアートプロジェクト」（仮） 講師 黒瀬 陽平
8/27（月）	参加者による中間報告会及びゲストアーティストによるアドバイス 講師 SIDE CORE
8/28（火）	
8/29（水）	ワークショップ 2 「日本美術と「ストリートの感性」」（仮） 講師 島袋道浩×SIDE CORE
8/30（木）	各自リサーチ
8/31（金）	期間 計4日間
9/ 1（土）	講評会及び活動報告展 ゲストアーティスト SIDE CORE
9/ 2（日）	参加者の活動報告展